

栄養教諭養成における栄養教育実習に関する 指導方法の検討

A Methodological Study on how to instruct Nutrition Educational Practice In Nutrition Teacher Training Course

景山美津子*
Mitsuko KAGEYAMA

Abstract

At Kurashiki Sakuyo University, Nutrition Teacher Training course has commenced since 2005, which later offered the opportunity to obtain a Nutrition Teacher License since 2008. Following the first report of the Education Training Council in 1997 or the amendment of the Education Personnel License Act in 1998, the mandatory course subjects or other educational contents have been improved and enhanced as appropriate, which also includes systematizing one credit for pre- and post-teaching training. However, considering the limited learning time for students to receive three or four licenses during the course, great importance should be emphasized on how to effectively improve the practical teaching skills or leadership.

Therefore, for the meaningful nutrition education training, in order to help informative instruction in the course, we conducted a survey regarding the students' impression before and after the training course, and examined the methodology on how to motivate and instruct students during the nutrition education teacher training course. First, the results showed that most of the students, on the basis, were interested not only in nutrition education training itself, but also, more specifically, in how to make the educational guidance or how to improve their presentation skills in teaching. Secondly, approximately 60% of the students have experiences of food education classes (guidance) from nutrition teachers in their childhood. Although students who used to take those classes seemed to have a good image of nutrition teachers, it is really important for all of the students, which includes no experiences as such, to depict models of nutrition teachers. This is the critical point in this instruction, but can be achieved by sharing other students' presentations in mock lessons and discussing to improve planning or guiding of the class. Finally, vocal practice is recognized as the essential training regarding nutrition teachers course before starting this course. Some of the students, however, seemed to learn that the skill can improve their presentational performance. Vocal instructions should be continuously included in this training course. More meticulous studies on effective teaching methods will be continuously enhanced with the aid of these feedbacks in order to cultivate practical teaching skills as a teacher within the limited study time.

Keywords: Nutrition Teacher Training Course, Nutrition Educational Practice, Nutrition Education

はじめに

栄養教諭制度は2005（平成17）年4月1日にスタートした。それまでは、主に学校給食の管理業務を中心に行っていた学校栄養職員が食に関する指導の一部を担ってきた。栄養教諭制度の創設により、栄養教諭の役割は食に関する指導と学校給食の管理を一体的に行うものとされ、教諭や養護教諭と並んで、児童・生徒に対する指導を積極的に担う教育職員として位置づけられたのである。教職課程の科目や教育内容については、1997年（平成10年）の教育養成審議会第一次答申および、1998年（平成

*くらしき作陽大学食文化学部
Faculty of Food Culture Kurashiki Sakuyo University

11年)の教育職員免許法改正以降、教育実習の事前・事後の指導が制度化されている¹⁾。よって、栄養教諭要請における指導についても、この教育実習に合わせ指導方法を検討していく必要がある。

栄養教諭免許状は、栄養士あるいは管理栄養士の基礎資格の上に、教育に関する専門性を併せ持つこととされている。養成においては、新設された科目「栄養に係わる教育」で、食文化や食の歴史など、児童・生徒を取り巻く課題を踏まえ、栄養教諭としての使命や職務内容の重要性を理解し、教育に関する専門性および栄養に関する専門性を身に付けることができるようにすることを目的としている。²⁾

そこで、栄養教育実習では、栄養教諭の役割、職務について理解を深め、栄養教育に必要な資質の向上を図ることを目的としている。そして、教諭の資質と適性を身に付けるとともに、児童生徒に対する授業研究、生徒指導、学校行事等に主体的に取り組み、栄養教育における実践的な指導力を養うことを目指している。³⁾

くらしき作陽大学食文化学部では、2005年度(平成17年度)から、栄養教諭養成大学として授業科目が開講され、2008年度(平成20年度)から、栄養教諭免許が取得できるようになった。本論文では、当大学の栄養教育実習において、各実習生に対しいくつかの調査を行い、その指導方法について検討したのでその内容について述べる。

キーワード：栄養教諭養成、栄養教育実習、食育

I 目的

栄養教諭免許取得には、栄養士や管理栄養士の基礎資格取得に加え、教育に関する専門性を習得することが必要とされており、「栄養に係る教育に関する科目」と「教職に関する科目」双方を履修しなければならない。栄養士や管理栄養士の資格取得のために割く時間も必要な中、履修科目も多くなるため、限られた履修時間の中で教諭としての実践的な指導力を養うことが求められる。

そこで、栄養教育実習を有意義なものにし、栄養教育実習に関する指導に役立てることを目的に、栄養教育実習前後に学生の意識調査を実施し、栄養教諭養成における栄養教育実習に関する指導方法の検討を行った。

II 方法

1 調査対象

2020年度にくらしき作陽大学食文化学部で栄養教諭養成における栄養教育実習指導を履修した19名の学生を対象とした。

2 調査方法

栄養教育実習前(5月)と栄養教育実習後(10月)に、実施した(回答率100%)。

3 倫理的配慮及び利益相反

調査の趣旨と概要、そして回答は成績等には影響しないことを学生に説明した。この調査において利益相反(COI)は生じていない。

4 調査項目

(1) 栄養教育実習前の調査(調査対象：19人)

- 1 栄養教育実習についての興味
- 2 小・中学校で、栄養教諭から受けた食育授業(指導)の内容
- 3 栄養教諭の免許を取りたいと思った理由
- 4 栄養教育実習の前に、習得しておきたい内容

5 栄養教育実習で、体験したい内容

(2) 栄養教育実習後の調査（調査対象：19人）

- 1 栄養教育実習についての印象
- 2 栄養教育実習中に実施した食育授業(指導)の内容
- 3 栄養教育実習の前に、学習してよかったと思う内容
- 4 栄養教育実習の前に、もっと学習すべきだった内容
- 5 栄養教育実習で、体験して良かったと思う内容

Ⅲ 結果

(1) 栄養教育実習に対する印象調査

栄養教育実習前に調査した、栄養教諭免許を取りたい理由についての結果を図1に示す。栄養教諭として働きたい9人、教職者のスキルを身に付けたい8人、食育授業（指導）ができるようになりたい6人、美味しくヘルシーなメニューを食べさせたい3人、いろいろな資格を取りたい11人であった（表3）。栄養教諭の役割を自覚し、栄養教諭免許の取得に意欲があることが示唆された。

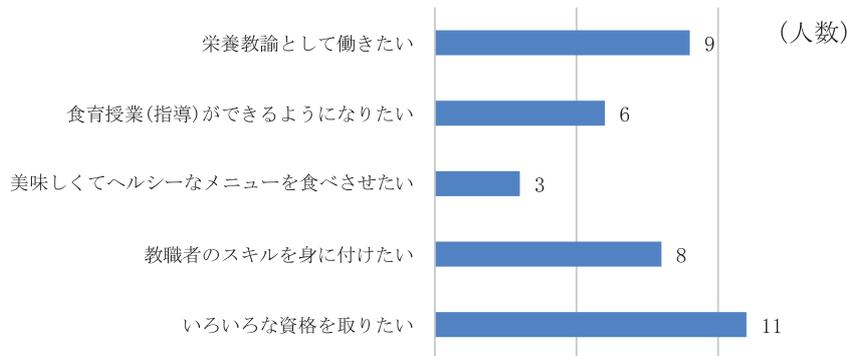


図1 栄養教諭の免許を取りたいと思った理由（2つ選択）

実習受講前の栄養教育実習についての興味は、とても興味がある9人（47.4%）、少し興味がある10人（52.6%）、あまり興味がない、全く興味がないは、0人であった（図2左）。栄養教育実習について興味があることがわかった。一方、栄養教育実習後の印象（図2右）は、とてもよかった13人（68.4%）、まあまあよかった6人（31.6%）、あまりよくなかった、全くよくなかったは、0人であった。栄養教育実習後の印象は、どの学生もよかったことが分かった。受講生の実習に対する興味と、印象について相関があると考えれば、実習受講後、習得内容等がより明確になり、教育実習に対する印象がより良好になった結果だと捉えられる。

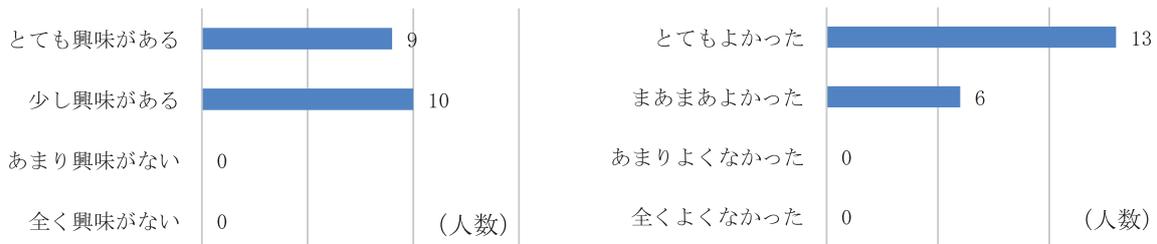


図2 実習前（左）および実習後（右）の、栄養教育実習に対する印象

(2) 食育授業の内容に関する印象調査

実習前後の食育授業の内容に対する印象について調査した結果を図3に示す。小・中学校で栄養教

論から受けた食育授業（指導）は、食べ物の働き9人、朝食について7人、かむことの大切さ6人、食品について5人、食べ物の旬3人、料理について・成長期の食生活・生活習慣病と食生活1人、まだ受けたことがないが7人であった（図3左）。栄養教諭からいろいろな内容の食育授業（指導）を受けていたが、食育授業（指導）を受けたことのない学生が36.8%いたことが分かった。また実習受講後、栄養教育実習内での食育授業の内容について印象調査を行った結果（図3右）、朝食について18人、食べ物の働き7人、食品について3人、料理について・かむことの大切さ・食べ物の旬1人、その他8人であった。食育推進基本計画において、子供に対する食育の推進の目標に関する事項として、朝食を欠食する子供の割合を平成27年度の44%から平成32年度までに0%を目指すことを掲げていることもあり、今回の実習内でもこの点について重点的に食育授業に盛り込んでいる。この結果、朝食について強く印象を受けている学生が1番多くなっていると考えられる。

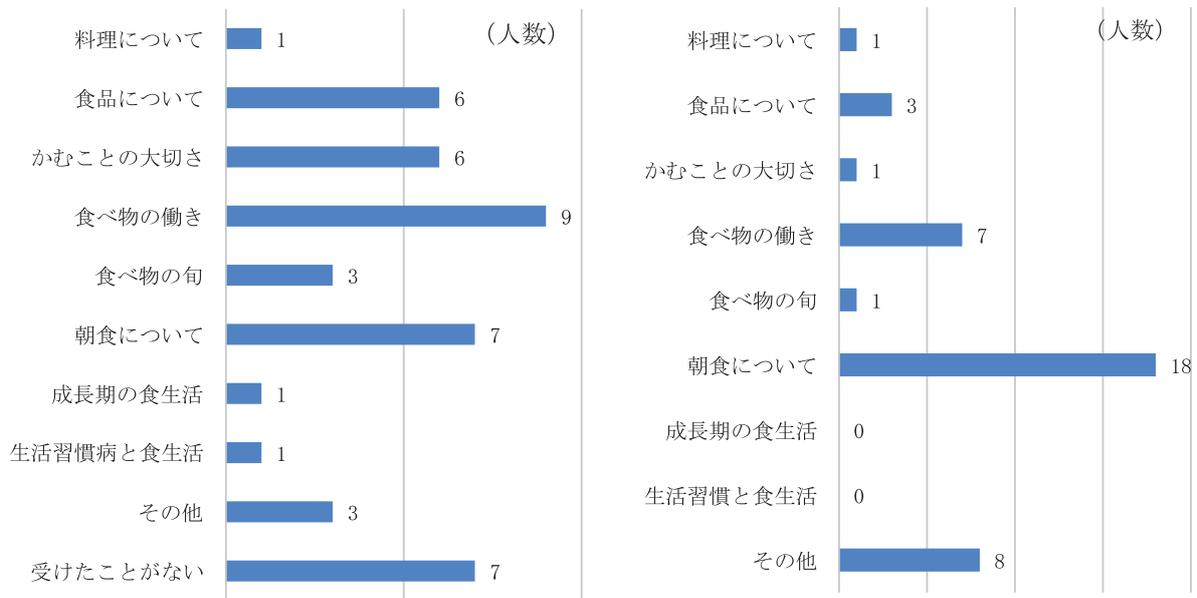


図3 実習前（左）および実習後（右）の、食育授業の内容に対する印象

（3）栄養教育実習での習得内容についての調査

実習受講前に、栄養教育実習で習得しておきたい内容について調査したところ、学習指導案の作成17人、模擬授業16人、食物アレルギー対応の知識14人、板書計画13人、児童・生徒の理解12人、教材研究9人、栄養学に関する知識8人、一般教養3人、自分の健康管理1人、発声練習・カウンセリング方法は0人となった（図4左）。栄養教育実習指導の初回講義時であったが、学生側は、栄養教育実習のおおよその内容について把握できていることが分かった。一方、実習を終えて、栄養教育実習の前に学習してよかったと思う内容について調査した結果、板書計画15人、模擬授業14人、学習指導案の作成13人、栄養学に関する知識12人、教材研究・児童生徒の理解10人、自分の健康管理5人、発声練習4人、一般教養3人、食物アレルギー対応の知識2人、児童・生徒の理解12人、カウンセリング方法1人となった（図4右）。これらを比較したところ、事前に習得したいと考えていた内容と、実際に実習を終えて習得してよかったと感じた内容には大きく違いがみられた。栄養学に関する知識は8人から12人に増え、発声練習は0人から4人に増えた結果となっていた。また、栄養教育実習の前に、もっと学習するべきだった内容については、栄養学に関する知識5人、学習指導案の作成4人、模擬授業・児童生徒の理解3人、教材研究2人、発声練習1人であった。栄養教育実習前に尋ねた、栄養教育実習前の習得しておきたい内容で、7番目だった栄養学に関する知識が、1番多く、5人から12人に増え、必要とできていなかった発声練習は、もっとするべきだったが1人になっていた（図5）。

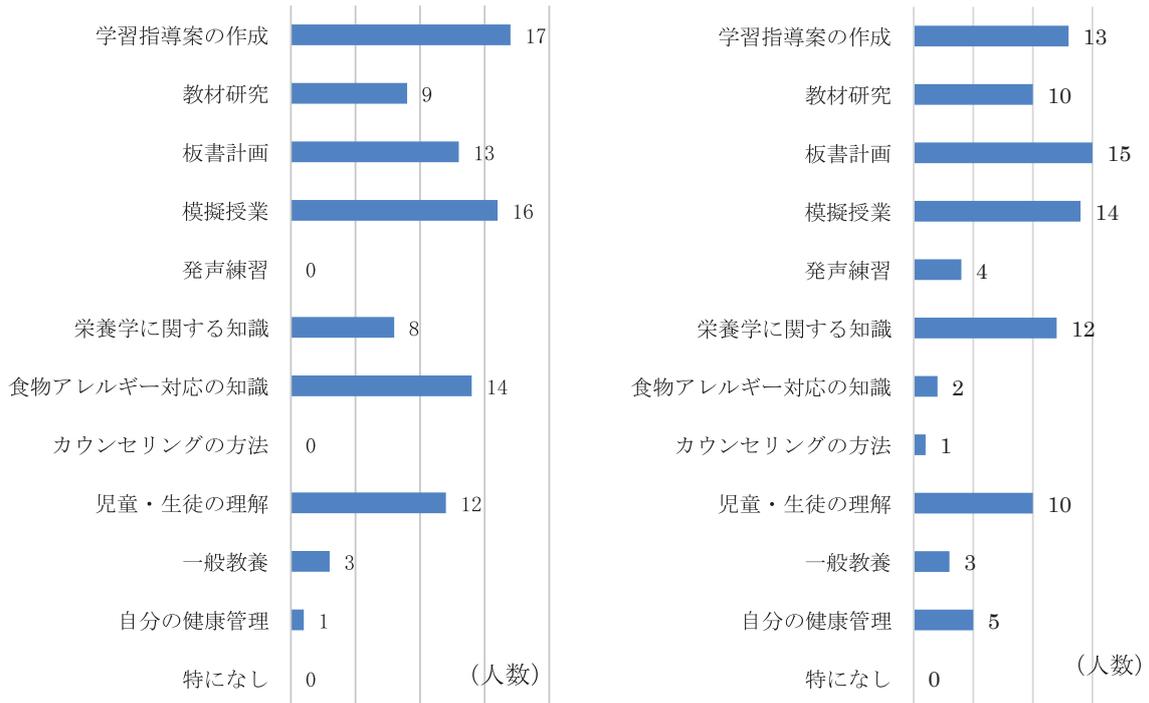


図4 実習前（左）および実習後（右）の、栄養教育実習での習得内容に関する調査

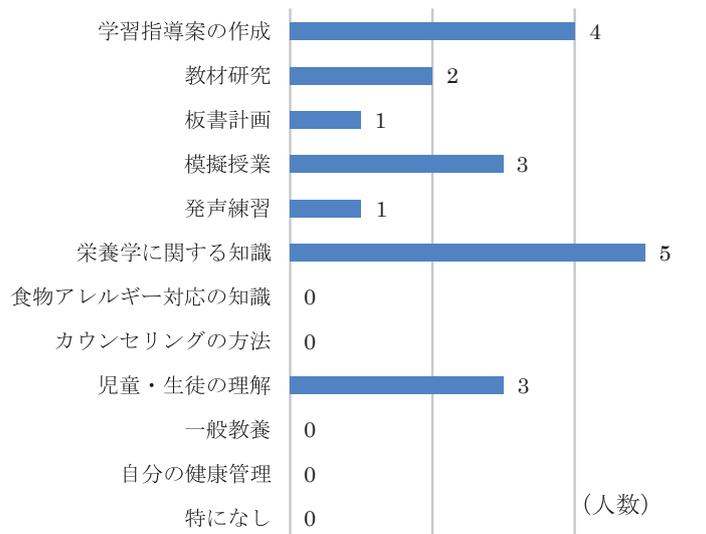


図5 実習後、実習前にもっと学習すべきだったと感じた内容

(4) 栄養教育実習の内容について

栄養教育実習受講前に、実習で体験したい内容について調査した結果、栄養教諭の仕事を知る16人、学校現場を知る15人、児童・生徒の理解を深める5人、食育授業（指導）を実施する2人、栄養教諭になりたい気持ちを高める0人となった（図6）。これに対し、実習受講後、栄養教育実習で、体験して良かったと思う内容は、学校現場を知る15人、食育授業（指導）を実施する11人、児童・生徒の理解を深める8人、栄養教諭の仕事を知る5人、栄養教諭になりたい気持ちを高める0人であった。栄養教育実習前に尋ねた、栄養教育実習で体験したい内容で、7番目だった食育授業（指導）が、体験して良かったと思う内容で2番目に多くなっており、食育に対するイメージ、食育指導を行うモチベーションが、実習受講により高まったことが示唆された（図6）。

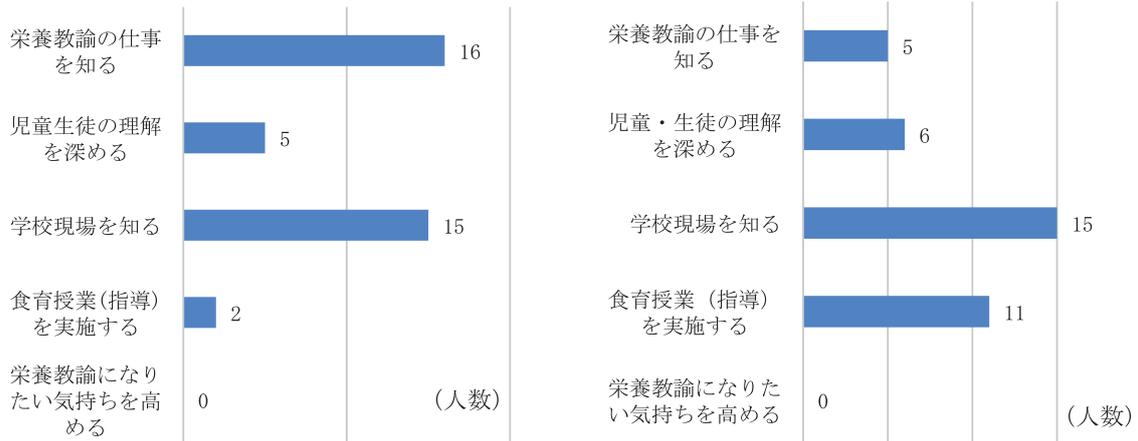


図6 実習内容について実習前体験したい内容（左）、実習後体験して良かった内容（右）

IV 考察

栄養教育実習に対する興味は、全員の学生にあった。しかし、研究課題の作成には、とても手間取っていた。実習に際しては、目的を十分に理解し、学習目標をもって実習に臨む必要がある。そのため、研究課題の作成は、栄養教育実習を有意義なものにするためにとても大切であることが、学生には理解できていなかった。研究課題の作成の時間を取ってしっかりと取り組む必要がある。

また、2005年に栄養教諭制度が発足して15年がたち、約6割の学生は、栄養教諭から食育授業（指導）を受けていたが、約4割の学生は、未だ受けていなかった。事前学習の模擬授業で、準備がほとんど完璧にできている学生もいたが、栄養教育実習の直前になっても、学習指導案作成や教材研究や板書計画の準備ができていない学生もいた。今年度は新型コロナの影響で、対面授業が6月開始となったため、オンライン授業でのスタートとなり、栄養教育実習に関する重要な部分の指導が十分にできなかったことも、学生の意識に影響したと考えられるが、栄養教諭と関わった経験がある学生は、栄養教諭の行う食育についてイメージがしやすく、順調に準備ができていたようである。栄養教諭と関わった経験のない学生に対して、栄養教諭の行う食育について、イメージがしやすくなるように手立てを考え、もっと細かな指示をする必要があった。

そして、栄養教育実習後の印象は、全員の学生がよかった。食育推進基本計画において、子供に対する食育の推進の目標に関する事項として、朝食を欠食する子供の割合を平成27年度の44%から平成32年度までに0%を目指すことを掲げている。そのため、栄養教育実習の食育授業（指導）は、朝食について、1番多くなっている。発声練習を栄養教諭に関する授業科目の中で実施している。実習前には必要性を認識している学生がいなかったが、実習後はもっとするべきだと思える学生がいた。発声上手な学生もいるが、ほそほそと話すため聞き取りにくい学生もいる。発声練習で声の出し方や読み方等を練習することは、栄養教諭に必要な資質と捉え、これからも続けて実施していきたい。

また、栄養教諭実習前に習得しておきたい内容で、栄養学に関する知識は、実習前には7番目だったが、実習後は一番多くなっていた。栄養教諭免許状は、栄養士あるいは管理栄養士の資格の上に、教育に関する専門性を併せ持つこととされている。教育に関する専門性および栄養に関する専門性を身に付けることの必要性を、栄養教育実習で実感したと考えられる。

さらに、栄養教育実習前に尋ねた、栄養教育実習で体験したい内容で、7番目だった食育授業（指導）が、実習後に尋ねた、体験して良かったと思う内容で、2番目に多くなっていた。食育授業は、学習指導案の作成、板書計画、教材研究、模擬授業等、実習前にしっかりと準備をしていたことが、体験して良かった内容につながったと考えられる。

V 結論

今回、栄養教育実習をより有意義なものにするため、教育実習受講前後の受講学生に対して意識調査、実習に対する印象調査を実施し、教育実習指導方法についての検討を行った。その結果、以下のことが示唆された。

食育授業を受けた有無によらず、栄養教育実習における食育授業は重要であることが分かった。特に、朝食については、栄養教諭としての指導内容として、学生の関心も高かった。

実習前後で、学生は、栄養学に関する知識が必要であると認識した。

また、発声練習や児童・生徒の理解など、教育職員として身に付けなければならないことも実習を通して理解することができた。

これからも、効果的な指導方法を検討して、限られた履修時間の中で教諭としての実践的な指導力を養うために、より一層の充実を目指していきたい。

V 参考文献

- 1) 石川顕子他：栄養教諭養成課程における現状と課題、くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学研究紀要 第43巻第1号（2010年）p.1～6
 - 2) 金田雅代 編著：四訂 栄養教諭論—理論と実際— 健帛社 2019年
 - 3) 笠原賀子 編著：栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂 医歯薬出版 2018年
- 文部科学省：学校教育法（昭和22年3月31日法律第26号）最終改正 平成23年6月3日法律第61号
文部科学省：学校給食法（昭和29年6月3日法律第73号）最終改正 平成27年6月24日法律第46号
中央教育審議会答申：食に関する指導体制の整備について2004年（平成16年1月20日）
文部科学省：栄養教諭制度の公布2004年（平成16年5月21日）
農林水産省：食育基本法2005年（平成17年6月17日法律第63号）最終改正 平成27年9月11日法律第66号）
中央教育審議会答申：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について2008年（平成20年1月17日）文部科学省:栄養教諭制度の概要
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/eiyou/04111101/003htm 2013年（平成25年6月20日）
農林水産省：第3次食育推進基本計画2016年（平成28年3月）
文部科学省：食に関する指導の手引き 第二次改訂版 2019年（平成31年3月）
田中信 監修・著書：栄養教諭養成における実習の手引き 第二版 東山書房 2011年3月29日
松崎政三他 編著：全施設における臨地実習マニュアル 給食経営管理・給食の運営 第3版 建帛社 2018年12月20日
高城孝介他 編著：第2版 実践給食マネジメント論 第一出版 2019年9月20日
相良麻里:教育実習に関する効果的な事前・事後教育の検討—実践的指導力の基礎（2）—、東京家政大学博物館紀要 第15集 p.1～10. 2010

